

令和元年度

教育委員会点検・評価報告書

下呂市教育委員会

令和2年11月

目 次

はじめに		1
「学校教育の方針と重点」についての点検・評価		2
「文化財保護事業の方針と重点」についての点検・評価		6
「生涯学習推進の方針と重点」についての点検・評価		9

はじめに

下呂市では、下呂市第二次総合計画の教育分野において、「生きる力や豊かな文化を育みます」の基本理念のもと、明日の下呂市を担う人づくりに取り組んでいます。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされています。

下呂市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、施策及び事務事業に関する点検・評価を実施し、報告書を作成しています。

令和2年11月

下呂市教育委員会

令和元年度「学校教育の方針と重点」についての点検・評価

1 方針及び設定指標に係る点検・評価

【方針】

◇「学びに向かう力」や「共生・創造する力」等、一人一人に「生きる力」を育む教育を推進する

◇学校の教育目標の具現に徹し、地域に信頼される学校経営を推進する

【指標】魅力ある学校づくりに向けて

①「学校が楽しいと感じる児童生徒の割合」を90%以上にする。

②「授業の内容が分かり易いと答える児童生徒の割合」を90%以上にする。

③「授業で学ぶことが楽しいと答える児童生徒の割合」を80%以上にする。

※「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」等と回答した児童生徒に目を向けた指導や支援の充実

《指標結果》

① 学校が楽しいと感じる児童生徒の割合

区 分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
目 標	82.0	85.0	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実 績	93.7	94.2	94.9	94.8	95.2	94.9	95.5	94.7	93.8

② 授業の内容が「分かり易い」と答える児童生徒の割合

区 分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
目 標	82.0	85.0	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実 績	94.1	94.0	95.0	93.7	95.3	95.1	95.7	95.3	94.0

③ 授業で学ぶことが楽しいと答える児童生徒の割合

区 分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	R1
目 標	令和元年度からの新設設定指標								80.0
実 績									91.4

〈総評〉

□ 予測不能で、大きく変化する社会を生き抜く子供たちには、自ら課題を見出しより主体的に学ぶ力（学びに向かう力）や、仲間と協働して課題を解決する意欲や力等（協働する力）をつけなければならない。

各校においては、児童生徒にこうした力をつけるための工夫・改善が必要である。このような現状を踏まえ、令和元年度から「学ぶことが楽しい」を設定指標に加え評価することとした。

□ 目標値8割を超える実績評価が出てはいるものの、児童生徒個々が「課題を自分事としてとらえ、自らの思いや願いでその解決に向かっているか」「課題解決の過程が、個々に力をつけるものになっているか」「仲間と共に思考する過程で、個々の思考が高まっているか」などの視点で厳しく捉え直し、学ぶことや創造することの「真の楽しさ（充実感、達成感）」を高める必要がある。

□ 平成17年度より設定した他の指標については、目標値9割を超える児童生徒が学校生活への満足感や授業への充実感を得ていることが分かる。各校における教育活動の充実を表す一つの指標と捉えることができる。一方で、満足感や充実感を得られていない「残り数%」の児童生徒については、継続的な指導や支援により「個に力をつける」「個に返す」ことを意識した指導や支援を継続したい。

□ 変化する社会をたくましく生き抜く力の育成だけでなく、ふるさと下呂を誇りに感じながら生き続ける人材育成も目指し、地域・家庭・学校が一体となって子育てをする体制づくりも始まっており、「どんな子に育てたいか」「どんな地域にしたいか」といった熟議を繰り返す段階である。

2 重点における評価

(1) 「確かな学力」の定着を図る指導の充実

① 学力向上、教科指導充実内容と評価

【主な取組】

- ・全国学力学習状況調査の結果分析と授業改善
- ・C R T調査をもとにした個々の児童生徒の実態把握
- ・授業の終末における、評価問題や補充問題の確実な実施
- ・少人数指導等の実施：少人数指導加配、教科専門配置校（萩原小、下呂小、萩原南中、下呂中）
- ・複式学級における教科担任、中学校の免許外指導解消による授業の充実
- ・I C Tや具体物を活用した授業

【成果・評価】

- 全国学力学習状況調査
- ・市全体の平均正答率は、小学校の国語、算数、中学校の国語で全国や県の平均正答率を上回っており、学力定着の成果は出ている。*中学校の数学は全国とほぼ同じ。
- ・きめ細かな分析による教科指導の工夫や授業改善、子供たち自らも授業のあり方を考える取組等による学習規律の安定や学習集団の向上で、調査結果が良好な状態は続いている。
- ・質問紙調査や魅力ある学校づくりのための設定指標調査においても、「授業がわかりやすい」と答える児童生徒の割合は90%を超えている。今後は、「学ぶことそのもののが楽しい」と答える児童生徒の割合にもこだわり、「学ぶに向かう力」を高めていく必要がある。

② 特別支援教育の充実内容と評価

【主な取組】

- ・主幹教諭配置による各校への指導と助言及び特別支援コーディネーターの資質向上
- ・障がい児教育支援委員会充実による適正就学と適切な支援体制の構築
- ・市費学業支援員、県費非常勤講師配置による個別支援の充実 市費28名 県費4名

【成果・評価】

□特別支援学級、通級指導教室設置状況

	知的学級	自閉情緒学級	難聴学級	肢体学級	言語通級教室	LD/ADHD等通級教室
小学校	9校	5校	1校	1校	2校	4校
中学校	5校	4校				1校

- ・市費学業支援員等の配置を計画的に進めてきたことにより、個の教育的ニーズに応じた支援ができています。各校においては、関係機関や保護者との連携・連絡を密にしていることで合意形成による長期的な支援方法も考えられている。「下呂市専門家チーム派遣」も多く活用されてきた。
- ・対象児童生徒が増加傾向にあり、それに対応する特支学級や通級指導教室の確保、専門的な指導ができる教員の育成が課題である。また、障がい等で困り感のある人やその家族の相談や支援を、幼児から成人まで途切れのないものにするための機関や施設が望まれる。

(2) 「豊かな心と健やかな体の育成」を図る指導の充実

① 道徳教育等の充実内容と評価

【主な取組】

- ・「心を育てる道徳計画訪問」等による道徳の時間の充実
- ・「特別の教科 道徳」の実施と実践による道徳の時間の充実
- ・コミュニティスクールによる体験的活動、学校行事や生徒会活動の工夫等による人間関係構築

【成果・評価】

- ・ふるさとを知り、ふるさとを誇りに思う気持ちの高まりがあり、地域活動への積極的な参加や地域貢献活動にもつながっている。
- ・一方、「自己を見つめる力」「困難を克服する強さ」など、個々の弱さも感じられ、さらなる充実が必要

② 生徒指導の充実内容と評価

【主な取組】

- ・管理職を柱とした生徒指導体制の構築（組織対応、未然防止、早期発見と早期対応、連携）
- ・いじめ未然防止と早期発見・早期対応に関する研修の充実
- ・規範意識を高める指導の工夫と充実
- ・生徒指導研究協議会や主幹教諭による各校への指導と助言及び生徒指導主事の資質向上

【成果・評価】

□いじめの認知件数

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
30件	19件	34件	28件	117件	123件	108件

- ・認知件数増加はいじめの定義が変更になったことによるが、学校において早期発見、早期対応の意識が高まったことの成果でもある。事案発生時の組織的対応も確立されてきた。
- ・市としても、「下呂市いじめ防止等対策推進条例」「同規則」「下呂市いじめ問題再調査委員会規則」も整備し、法律や臨床心理、大学教授などの専門家を構成員とする組織体制が整ったことも大きな成果と言える。

□不登校

種別	小学校				中学校			
年度	H28	H29	H30	R1	H28	H29	H30	R1
人数	3	3	5	6	18	18	15	17
1000人当たり	1.9	1.9	3.3	3.9	20.4	20.5	11.9	22.2

- ・小中学校ともに、1000人当たりの出現率が、国や県を下回る傾向で推移している。
*R11000人当たりの出現率：国（小）8.3人（中）39.4人 県（小）8.7人（中）38.2人
- ・不登校の要因は複雑化している。専門家（SC、SSW）や関係機関との連携を密にするなど、組織的対応は不可欠である。不登校児童生徒の居場所づくりについても対応を継続したい。

③健康及び安全教育の充実内容と評価

【主な取組】

- ・毎朝の健康観察及び保護者との連携強化
- ・学級活動における食育や健康教育の充実
- ・食物アレルギー対応指針の啓発（保護者向け説明実施）
- ・「自分の命は自分で守る力」の育成（命を守る訓練の充実、市防災訓練への小中学生参加）
- ・スクールサポーター事業の継続、強化 ボランティアによる見守り活動

【成果・評価】

- ・児童生徒が主体的に健康管理できる態度と能力が培われるよう、健康指導に関する工夫がされた。
- ・命を守る訓練の充実、サポートスタッフ等による見守りの強化等、安心安全を基盤とした教育が展開されている。
- ・通学時の安心安全の確保については、地域人材の活用が有効。学校運営協議会や地域ボランティアとの連携は不可欠な状況である。

(3)その他の教育活動、研修事業

① 地域に信頼され地域と共にある学校づくり

【主な取組】

- ・児童生徒や保護者、学校評議員、教職員によるアンケート調査を実施し、定期的評価・検証による教育活動を展開
- ・各校ホームページ充実（教育活動や行事の様子（写真）や学校だより、学校評価）
- ・地域協働による子育て体制整備

【成果・評価】

- ・学校運営協議会設置校13校 → 地域と共にある学校づくりが進められている。
*R2～全小中学校
- ・地域人材の活用や郷土教育を充実させるなど、地域と共にある学校づくりが展開されてきたことで、児童生徒に「ふるさとを思う気持ち」が生まれ、地域行事や地域ボランティアに参加する姿が多くなった。（地域貢献）
- ・地域協働による子育てを充実、発展させるために、「こんな子に育てたい」「こんな地域にしたい」等を、地域や保護者と熟議する必要がある。
*R2 各学校区に地域学校協働活動推進員を委嘱（市民活動推進課）

② 教職員の資質向上

【主な取組】

- ・教育研究所による研修事業充実
- ・市初任者研修、2年目研修実施
- ・市校長研修、教頭研修実施

【成果・評価】

- ・教育実践講座 夏季講座：10講座延べ334名
- ・教育実践論文応募 16点
- ・教職員一人一人が研鑽に励み、資質向上している。

(4) 教育環境の整備と充実

- ① 育英資金活用事業や要保護・準要保護就学援助事業により、経済的・身体的な理由により就学、進学が困難な児童生徒に対する就学支援の充実を図った。

・育英資金活用事業	高校生 39 名
・要保護・準要保護就学援助事業	小学生 74 名、中学生 71 名

- ② 改築、修繕関係

- ・北部学校給食センター改築工事を実施した。（平成30年度からの繰越事業）
- ・小中学校校舎エアコン設置工事を実施した。（平成30年度からの繰越事業）
- ・小中学校トイレ洋式化工事を実施した。
- ・下呂市学校施設長寿命化計画策定業務を実施した。
- ・萩原小学校校舎等改修工事基本設計業務を実施した。
- ・小坂小学校法枠擁壁補修工事を実施した。
- ・萩原北中学校屋内運動場床塗装改修工事を実施した。
- ・下呂中学校・竹原中学校バスケットゴール取替工事を実施した。

令和元年度「文化財保護事業の方針と重点」についての点検・評価

■文化財保護事業の方針と重点について

1. 方針と成果指標及び評価

1-1. 下呂市第二次総合計画の内容

[基本目標] 2. はぐくみ

[基本施策] 2-4. 歴史・文化財「みんなで守ろう文化財 ふるさとの文化を受け継ぎ守ります」

[目指すまちの姿]

- ①文化財を活用することで、地域文化の向上発展と地域振興を図っているまち
- ②市内全域にある埋蔵文化財の位置情報の正確な記録があり、迅速な情報提供、適切な保存・保護がなされているまち
- ③博物館収蔵品が適切に保存管理され、テーマに沿って随時展示公開することで、下呂市の歴史や文化が市民に深く理解されているまち

1-2. 第二次総合計画の成果指標について

【成果指標①】 埋蔵文化財包蔵地の詳細地図作成

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
目標	80%の地区で現地確認	全ての地区で現地確認	遺跡範囲の確定作業	遺跡範囲の確定作業	地図刊行準備編集	新遺跡地図編集製本	—
実績	達成 馬瀬地域	達成 小坂地域	遺跡範囲の確定作業	地図刊行準備編集	新遺跡地図発刊、県域統合型GISに登録	(H30に前倒しで達成)	—

内部評価：平成30年10月に発刊した「下呂市遺跡詳細分布調査報告書」をもとに県域統合型GISに遺跡の新範囲を登録し運用が可能となった。これにより、教育総務課窓口では土地家屋調査士や事業者による遺跡所在地の照会を正確に回答することが可能となった。また、これまでの試掘調査の結果報告書を発行することができた。⇒「目指すまちの姿②」

なお、当該計画は達成することができたため、令和2年度からは過去に刊行した発掘調査報告書をもとに城郭等の復元イラストを作成し、地域振興や観光及び学習の材料を提供する計画を新たに作成する。⇒「目指すまちの姿①」

【成果指標②】 下呂ふるさと歴史記念館（博物館法に定める博物館相当施設）入館者数

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
目標	14,500	14,500	14,500	14,500	14,500	14,500	15,000
実績	15,410	14,744	15,306	17,449	17,574	17,822	—

内部評価：入館者数は継続して目標値を上回っているものの、来館者への十分な展示解説ができない状況にあり、博物館としての基本機能は低下している。年間来館者数目標を継続して達成することを目指すと共に、展示品の解説員配置等により、博物館機能の質的向上を目指す必要がある。⇒「目指すまちの姿③」。

2. 主要な個別事業の方針と事業結果について

2-1. 文化財保存修理事業助成費 国・県・市指定文化財の保存修理補助金 ⇒「まちの姿①」

【国指定】久津八幡神社の夫婦スギ倒木防止

【県指定】坂下のケヤキ樹勢回復、苗代ザクラ雪害復旧、羽根白山のサクラ雪害復旧

【市指定】福應寺の華室保存修理、下原八幡神社社叢保護

国天然記念物については、倒木の危険性が懸念されていた「久津八幡神社の夫婦スギ」のワイヤー張工事を、県天然記念物については、平成30年度から2か年計画で施工中であった県天然記念物「坂下のケヤキ」の樹勢回復事業、また春先の降雪により被災した樹木2件について復旧工事を実施し、文化財保護に努めた。

2-2. 指定文化財保護事業 市内指定文化財の巡視と現地指導・文化財の指定範囲の審議

⇒「まちの姿①」

【文化財審議会】3/24：市指定文化財の名称及び種別の変更に関する審議

【市指定文化財の現状巡視】保護巡視員15人による年2回の巡視

【市指定文化財について現地指導】11/21：合掌村における合掌造り家屋の判定

指定範囲が明確でない市指定文化財について、専門家を招聘し現地指導を受ける等、調査研究を行った上で文化財審議会に諮った。

文化財巡視員から異常報告のあった文化財について、早期の対策により文化財保護を図っている。

2-3. 加藤素毛記念館／金山郷土館／小坂郷土館／馬瀬民俗歴史資料館／禅昌寺歴史資料館

今日まで地域に大切に伝わった収蔵資料の展示公開⇒「まちの姿③」

【加藤素毛】・【金山郷土館】地域の郷土史に詳しい人物による希望日開館と対応

【禅昌寺歴史資料館】・【小坂郷土館】・【馬瀬歴史民俗資料館】地域の民俗資料、埋蔵文化財出土品及び古文書等の収集保管施設

加藤素毛記念館は、遣米使節団の一員として活躍した「県重文加藤素毛の遺品」を展示公開する施設である。令和元年度には加藤素毛伝承事業の一環として下呂市HPにて加藤素毛の伝記漫画を掲載した。記念館は金山郷土館とともに地元小学生の社会科見学先として利用されている。禅昌寺歴史資料館は市内の古文書・埋蔵文化財が収蔵保管されており、市外・県外の研究者による調査研究、県立博物館の展示借用の利用に供している。

令和元年10月より、小坂郷土館・馬瀬歴史民俗資料館を地域の民俗資料の保管施設と位置付け、市内外の学校や調査研究目的の利用に限り事前申請の上、開放している。

2-4. 博物館収蔵品調査保存整理事業 古文書や出土遺物を整理保存し新たな価値を発見

⇒「まちの姿③」

【市収蔵資料の調査整理と目録刊行による公開】下呂市埋蔵文化財調査報告書の刊行

【収蔵品を活用した講座・授業の実施】3回連続講座×春・秋、萩原小学校・萩原南中学校「総合的な学習」授業支援

生涯学習講座「ふるさとの歴史講座」では、春に「飛騨の名所・益田の名所」、秋に「三木氏再考」をテーマとし、市内の史跡をはじめ収蔵古文書等が題材とされた。萩原小学校や萩原南中学校の「総合的な学習」では県史跡萩原諏訪城址の見学や収蔵古文書を利用した授業を行い、江戸時代の古文書を題材とした。そうした機会を通じ、地域の児童・生徒に「今日

まで大切にされてきたもの」を伝えることができた。令和元年度に該当はなかったが定期的に刊行する収蔵品目録は、地域に伝わった大切な史料の内容を明らかにし、生涯学習講座・学校授業の基礎を成している。

また、平成 24 年度から平成 30 年度の開発事業における試掘確認調査の結果を「下呂市埋蔵文化財調査報告書」として刊行した。

令和元年度「生涯学習推進の方針と重点」についての点検・評価

生涯学習の基本理念

下呂市は、社会構造の急激な変化、国際化、情報化、価値観の多様化にある現代社会において、その時々課題を的確に踏まえ、新たな視点で生涯学習時代にふさわしい創造と感動と交流を求めて、地域風土に沿った生涯学習社会の構築を目指します。

生涯学習は人づくりにあり、地域の主人公である市民は、学んだ英知を地域に還元し、原動力とすることにより市民主体によるまちづくりが推進されることを願っています。

基本理念は3本の柱で活力ある生涯学習社会の構築を目指します。

- 自立・・・的確に判断し、行動・活動が出来る人づくり
- 協働・・・仲間や地域で協力し、活動できる家庭・地域づくり
- 創造・・・伝統や文化の伝承と、変化を受けとめ新たに創り出す社会づくり

市の責務

市民が「参加したい、活動しやすい、そして喜びにつながる施策づくり」に努めます。

生涯学習の目標

- 1. 学習 : 自己をみがき、生きがいをもつ
- 1. ボランティア : 進んで活動に参加し、社会に奉仕する

分野別方針と評価

個別事業については、別表の「重点と評価」に整理していますが、分野別の主な事業について、次のとおり事業結果等をまとめました。

1. 家庭教育

【方針】

下呂市の家庭教育は、子どもの自立と積極的に温かい心をもった子どもの育成など、未来を担う子どもたちの人格形成の基礎を培うことを目指します。その実現に向けて、情報提供の工夫と支援プログラムの充実を図るよう事業を見直すと共に関係機関相互の連携を推進します。

(めざすこと)

①妊娠期からの子育て支援、②乳児期から青少年期の段階に見合った子どもの育成支援、③子ども園や学校、地域の連携による「家庭の教育力の向上」や「教育環境の充実」、④自主性や公共心などを身につけること。

主要な個別事業と事業結果について

○家庭教育支援総合整備事業

いのちのふれあい講座は全中学校3年生を対象に年4回行い、助産師や保健師による講話、お産劇・妊婦体験・産道体験など命の体験学習、子育て中の方にエピソードを聴くこと等を通して、命の大切さを学ぶと共に、人権意識の高揚、自己肯定感の醸成につながっています。

家庭教育支援事業「UPカフェ、赤ちゃんカフェ」は、子育て中の母親を対象に開催し、親同士や支援スタッフとの語り合いの中で、子育て中の悩みや不安やストレスの解消に大きく貢献しています。令和元年度に13年間の取り組みの成果を評価され文部科学大臣表彰を受賞しました。

「親学び講座」は、親子で様々な体験活動を行うことを通して、親子のコミュニケーションを図るだけでなく、子育てについてのさまざまな情報や手立てについて、親が学ぶ機会を提供できました。

家庭の教育力低下が叫ばれる中、様々な事業を、地域や学校と連携して行うことができたことに意味があります。保護者の事業参加への意識にはまだ格差があるため、事業の情報を発信していくと共に、子育てを保護者だけの責任とせず、地域全体で子供を育む意識をさらに高めていく必要があります。

2. 青少年教育

【方針】

生涯にわたる学習・生活の、基礎・基盤となる知識や技能、主体的に学ぶ意志や態度、さらには社会変化に適切に対応できる能力や、たくましく生きるための健康や体力などの「誇りをもって共に生きる力」を身に付けることを目指します。また、近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化しており、未来を担う子どもたちの成長を支えるには、地域と学校が協働し、社会総がかりで教育を行うことが重要であります。その仕組みである「地域学校協働活動」の基盤づくり及び教育機関や地域社会との連携をより一層推進していきます。

主要な個別事業と事業結果について

○青少年教育事業

下呂市青少年育成推進員はじめ市民による青少年育成市民会議により、少年の主張大会、青少年育成顕彰『わかあゆ賞』、国際交流イベント『WakuWaku インターナショナル・フェア』を開催しています。

少年の主張大会では、中学生がふだん考えていることを自分の言葉で堂々と発表することを通して、論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力の育成を図りました。

青少年育成顕彰『わかあゆ賞』では、スポーツ活動、文化活動、奉仕活動の優れた活動を顕彰し、更なる活躍を願うとともに、広く紹介することで青少年の健全育成を進めました。

令和元年度より「英語スピーチコンテスト」を中止し、『WakuWaku インターナショナル・フェア』を開催しました。下呂市内の幼児から大人までが国際文化に触れる良い機会となりました。また、海外派遣事業（ケチカン市・ペンサコーラ市派遣団）の報告の場として、中学生の研修の成果を市民の方に知っていただくこともできました。各ブースは、地域住民や清風高校の生徒、ALT 等が担当し、市民参画型のイベントとなりました。

○青少年健全育成事業

親子わくわく科学体験教室では、家庭や学校では体験できない科学の実験を通じて、子供たちが驚きや感動の体験を味わい、科学への興味を深めています。令和元年度は、清風高校や日本充電インフラ㈱も体験ブースを出展しました。また、中学生ボランティアが100人程参加し、小学生に教えたり、ステージ発表をしたりして、表現力・コミュニケーション力の育成にもつながっています。

ふるさとジュニアサポーター事業は、主に中学生が地域事業（イベントや福祉活動）にボランティアスタッフとして参加することにより、中学生の社会性の育成、自己有用感の高揚、地域への愛着と地域社会の担い手としての自覚を高めるなどの効果が見られています。地域においても将来的な担い手育成につながることを理解していただき、積極的な協力をいただいています。本事業は、地域学校協働活動につながると考えています。

3. 地域教育

【方針】

社会構造の変化から、全国的な地域コミュニティの衰退が課題となっています。近年、住民側、市民団体側からの再生の動きが注目されています。その背景には、次のようなことがあります。

① 大災害などに備え、コミュニティの結束力を再構築する動きが広がっていること。

② 地域コミュニティ自体に活動の機運が強まっていること。

日常生活における最小コミュニティは家族ですが、地域社会とのふれ合いは豊かな家庭生活を築く大きな力を持っています。人々との交流の中で生まれる喜びの感情や災害などの事案に遭遇したときの相互扶助の役割は、地域コミュニティに大いに期待されるべきものです。地域コミュニティの重要性が改めて唱えられてきている機運を高めるため地域自治会等の強化と連携を推進していきます。

主要な個別事業と事業結果について

○地域学校協働活動

本事業は地域と学校が目標を共有し地域全体で子供たちの成長を支え、地域づくりを進める様々な活動です。本活動を通じて子供たちの郷土愛の醸成のみならず、地域活動の活発化、地域教育を図りました。先行実施されている学校運営協議会の取り組みを地域学校協働活動と有機的につなげていく事が課題です。この活動を積極的に行えるよう地域人材の発掘、働きかけ活動の支援を行いました。本事業（放課後子ども教室含む）は、生涯学習の基本理念である「学んだ英知を地域に還元」を行っています。地域住民が子どもの成長や学びのため自身の英知（経験や知識）により支えていく事業です。

○放課後子ども教室

今年度から放課後子ども教室を実施しました。説明会や取り組みを紹介するリーフレットを作成し保護者や地域住民に周知を図りました。運営スタッフは、地域住民にて十分な人数が確保でき、安定した教室運営を行うことができます。高齢者だけでなく、保護者や主婦、学生などの参画もあります。それぞれが地域の子供たちの成長や学びを支えるという意識をもって参画しているだけでなく、活動を自分自身の喜びや生きがいと感じていることも多いです。青少年育成は勿論のこと、地域で子供の成長を支えていくことが地域活性化に繋がっていくと思います。また、保護者からの感謝や信頼の念も高く、青少年育成事業として高い評価も得ています。

○生涯学習講座

春と秋の2期に17講座を開設し、延べ1,007人が参加しました。生きがいづくり、仲間づくりを目的として例年同様の方式で開催しました。アンケート結果等により講座内容を検討し、受講者アンケートで高い満足度を得ました。受講者数は昨年度より減少したため、受講者の増加と高い満足度を目指し生涯学習講座の魅力について広くPRを行います。

金山地域の、菅田、金山、下原、東の4館が、公民館活動として春と秋の2期に21講座を開講し、延べ231人が受講しました。地域を繋ぐきっかけともなっており、地域づくりに貢献しています。

4. 情報教育

【方針】

インターネットがグローバルな情報通信基盤となり、経済社会に変革をもたらしていると共に、パソコンやスマートフォンが広く個人にも普及している中、誰もが情報の受け手だけでなく送り手としての役割も担うようになり、日常生活も大きく変化しています。

◇ 市民の情報活用

課題や目的に応じた必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力の育成。

◇ 市民の情報への理解

情報を適切に扱い、自らの情報内容の評価・改善するための方法、理解力の育成。

◇ 情報社会に参画

社会生活の中で情報が果たしている役割や影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について理解し、望ましい情報社会の創造に参画する。

主要な個別事業と事業結果について

○図書館運営

萩原、下呂、金山の3図書館、小坂の1図書室、馬瀬の1移動図書館を設置しています。蔵書数は、市民一人当たり、平成29年の3.2冊、平成30年度で3.3冊、元年度には3.5冊と年々増加し、充実しており、一人当たりの貸出数は平成29年度2.8冊、平成30年度で2.9冊、元年度では3.1冊と毎年増加しています。図書館職員による様々な企画やバランスのいい選書等が要因と思われます。県内貸出数平均値5.25冊より下回っているものの、施設規模は県内19位（全21市）や市民一人当たりの蔵書数18位からみれば、小規模で蔵書も少ないとの見方ができます。今後も図書館での企画や魅力ある蔵書収集をして利用者増に努めます。

生涯学習事業の重点事業と評価

重点事業と評価

重点	重点事業	(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
社会教育事業 10040105	◇下呂市社会教育委員の会を開催し、市民活動推進課所管事務の評価を行い、健全な事業運営に努める。 ◇社会教育関係団体（県・飛騨社教等）との連携	(3) 地域教育 (4) 情報教育	社会教育委員の会 4回開催 ・東海北陸社会教育研究大会参加 ・生涯学習の基本方針の策定に関わる意見・提言 ・下呂市社会教育関係団体年度未登録団体数 115団体 ・まちづくり人材バンクの登録件数 107件	「下呂市生涯学習推進の方針と重点」により、さらに生涯学習の重要性が理解されることとなりました。
青少年教育事業 10040201	◇少年の主張の開催 ◇青少年顕彰(わかあゆ賞)の実施 ◇ワクワクインターナショナルフェアの開催 ◇青少年育成市民会議の開催 ◇青少年文化等振興奨励金交付 ◇立入検査(有害図書等)の実施 ◇人権学習資料の配布	(2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育	下呂市青少年育成推進員 15名 青少年育成市民会議主催行事 ①青少年育成市民会議【R1.6.23開催】 ・少年の主張下呂市大会 市内中学校より推薦された6名が発表し、審査の結果上位2名を飛騨地区選考会へ推薦した。 ・青少年育成顕彰わかあゆ賞 青少年の文化、スポーツ、奉仕活動等の優れた活動を顕彰 67名、1団体 ②ワクワクインターナショナルフェア【R1.10.19開催】 - R1新規事業 - 中学生の海外派遣事業への市民理解等を深め、海外派遣に参加した中学校の研修成果を広く市民に知ってもらう。英語・海外に関するイベントを同時開催した。 - 青少年全国大会出場奨励金 8名、40千円	青少年推進員と協力・連携して行事を概ねスムーズに開催することができました。また、各大会は出場した生徒の自信・意欲等につながっています。 新規事業であるワクワクインターナショナルフェアは、中学生海外派遣の成果発表を市民へ直接発表することにより中学生本人の達成感や市民関心の向上ができました。また、中高生、市民ボランティア等によるイベントを同時開催し英語や海外等に親しむを持ってもらうことができました。

生涯学習事業の重点事業と評価

重点

評価

重点	重点(事業)	(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
青少年健全育成事業 10040205	◇子ども会活動の推進 ◇親子わくわく科学体験教室の開催 ◇下呂市青少年育成推進員会議 ◇ふるさとジュニアサポーター活動の推進	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育	(1) 親子わくわく科学体験教室 市内小中学校の理科担当教諭等で構成された「下呂サイエンスの会」がボランティアで実務担当 学校や家庭では体験できない科学を通じて、子どもたちが驚きや感動の体験を味わい、親子のふれあいを深める機会を作ることを目的として実施 ①夏季の部 R1. 8. 3実施 参加者172名(参加児童113名、中学生ボランティア59名) ②冬季の部 R1. 11. 9実施 参加者331名(参加児童252名、中学生ボランティア79名) (2) 青少年各種団体補助金 2,259千円 ・子ども会等活動育成補助金 ・青少年健全育成推進会議補助金	・子ども会活動では、大きい子が小さな子の世話をしたり、近所のおじさんおばさんと触れ合ったりするなど貴重な体験ができています。 ・親子わくわく科学体験教室では、学校や家庭では体験できない実験を行い、驚きや感動の体験を味わい、親子のふれあいの場をつくることができました。 ・青少年育成推進員会議では、市民会議やワクワクワンターナショナルフェア運営等を通じて青少年育成活動を推進していくことを確認しています。
地域学校協働活動推進事業 10040207	◇地域学校協働活動 ◇放課後子ども教室(上原・中原小学校区)	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育	地域学校協働活動 ・地域学校協働本部設置等への補助や助言を行いました。 放課後子ども教室 ・上原っ子クラブ(上原小学校区) 令和元年10月より開始 開催回数94回 参加児童数(平均)15人 全スタッフ数15人 ・中原っ子クラブ(中原小学校区) 令和元年11月より開始 開催回数75回 参加児童数(平均)16人 全スタッフ数15人	子供たちの郷土愛の醸成のみならず、住民活動の活発化、地域教育を図りました。先行実施されている学校運営協議会の取り組みを地域学校協働活動と有機的につなげていく事が課題です。この活動を積極的に進めるよう地域人材の発掘、働きかけ活動の支援を行いました。取組み等を紹介するリーフレットを作成し保護者や地域住民に周知を図りました。運営スタッフは、地域住民にて十分な人数が確保でき、安定した教室運営を行うことができます。高齢者・保護者・主婦・学生などの参加もあり、それぞれが地域の子供たちの成長や学びを支えるという意識をもって参加しているだけでなく、活動を自分自身の喜びや生きがいと感じていることも多いです。保護者からの感謝や信頼の念も高く、青少年育成事業として高い評価も得ています。

生涯学習事業の重点事業と評価

重点 評価

重点	重点（事業）	(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
成人式開催 10040209	◇成人式の開催（旧町村単位で行う）令和2年1月11日（土）、12日（日）	(2) 青少年教育 (3) 地域教育	成人式開催（5地区）323人参加 令和2年1月11日（土） 小坂 26人 下呂 123人 令和2年1月12日（日） 萩原 114人 馬瀬 12人 金山 48人	各地区にて成人を迎える子供たちを集めて実行委員会をひらき、成人式の内容を決めています。成人を迎える子供たち自身で成人式を作るため地元の良さを再確認できます。
山之口キャンプ場管理運営 10040213	◇山之口キャンプ場の維持管理。利用期間は4月から10月	(2) 青少年教育 (3) 地域教育	令和2年度利用者 274人 前年度比 127.4% ※開設期間 4月～10月	市内学校はもろろんのこと、市外の利用者にも利用いただくことができました。また、市交流キャンプの拠点にもなっており、青少年における野外施設としての機能を果たしています。 ※前年度は豪雨により利用者減
下呂市交流キャンプ開催 10040221	◇下呂市交流キャンプを実施（山之口キャンプ場を会場にして市内の小中学校児童生徒から希望者） ◇ジュニアリーダーの資質向上と青少年の健全育成 ◇子ども会活動の充実を図る。	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育	下呂市交流キャンプ開催 市内の小中学生が集い、野外活動を通じて青少年の健全育成を図ると共に、ジュニアリーダーの指導技術向上を目的に開催 ①ワークキャンプについて ・8月10～11日開催 ・参加者 ジュニアリーダー27人 シニアリーダー7人 飛騨市ジュニア8人 (事業視察のため) ②交流キャンプについて ・8月17～18日開催 ・参加者 市内小学生33人(4年生以上) ジュニアリーダー19人 シニアリーダー6人	参加者がジュニアリーダー指導のもと、自分たちの手で宿泊キャンプを実施することは貴重な経験であり共同作業の大切さや集団行動を実体験として学ぶことができました。また、下呂市ジュニアリーダーズクラブを中心にキャンプを行うことにより、シニアリーダーは育成指導者としての成長、ジュニアリーダーは計画立案、準備、当日の運営や参加児童の指導等をする立場を経験することで個人の成長につながりました

生涯学習事業の重点事業と評価

重点 評価

重点	重点(事業)	(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
社会教育活動推進事業 10040301	◇PTA活動の推進支援 ◇生活学校活動の推進支援(金山)	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育	社会教育関係団体補助金 740千円 【対象団体】 市PTA連合会 金山町生活学校	市文化協会連絡協議会については、平成30年度から、事務運営経費を補助金として支出し、自主的な運営に移行しました。
家庭教育支援総合整備事業 10040305	◇親学び講座(父親参加の体験型講座を含む) ◇命のふれあい講座 ◇企業内家庭教育研修会 ◇家庭教育支援事業(下呂市家庭教育支援チーム) ◇子育て支援の連携会議による家庭教育相談体制の強化 ◇社会教育主事2名の配置による推進体制強化の継続	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育	(1) 親学び講座 親学び講座 10回開催 426人参加 (2) 下呂市家庭教育支援事業 U.P.カフェ・赤ちゃんカフェ 支援チームスタッフ 9人、 開催25回、延べ参加者605人 小坂地域1回、萩原地域8回、 馬瀬地域1回、下呂地域8回、 金山地域7回 (3) 命のふれあい講座 市内6中学校にて28回、 延べ参加者1100人 竹原小学校にて1回 ※他の1小学校でも計画していたがコロナにより中止	親学び講座では、親子で様々な体験をするを通して、親子のコミュニケーションを深め、子育てのヒントとなる情報や手立てを学び機会を作りました。 U.P.カフェ・赤ちゃんカフェでは、保護者同士や保護者と支援チームスタッフとの語り合いの場をつくり、子育て中の母親の悩みや不安の解消、ストレス発散を図りました。 命のふれあい講座では、市内中学3年生全員が、命の大切さ等の学び、人権への意識、自己肯定感の醸成につながりました。 今年度は試験的に小学校でも同講座を試験的に開催し関係者と協議・調整の結果、R2からは全小学校5年生対象で実施する事となった。
生涯学習講座 10040309	◇生涯学習講座の開催 ・参加者 延べ1100人を見込む ・前期(5～9月) 13講座を募集し、8講座を実施 ・後期(10～3月) 12講座を募集し、9講座を実施	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育	講座の実施状況 ◆萩原 ・前期5講座83人 延363人参加 ・後期4講座57人 延181人参加 ◆下呂 ・前期2講座36人 延66人参加 ・後期3講座76人 延363人参加 ◆金山 ・後期1講座6人 延6人参加 ◆小坂 ・前期1講座8人 延16人参加 ◆馬瀬 ・後期1講座3人 延9人参加 ○合計 ・前期8講座127人 延445人参加 ・後期9講座142人 延559人参加	生ががいくぐり、仲間づくりを目的として例年同様の方式で開催しました。アンケート結果等により講座内容を要検討し受講者アンケートでは高い満足感を得られました。前年度比較で受講者数が減少したため、受講者増と高い満足感が得られる講座内容を検討していきたい。

生涯学習事業の重点事業と評価

重点

評価

重点(事業)		(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
公民館活動 10040401	公民館条例に規定する公民館活動 公民館独自開催による講座の開催	(3) 地域教育 (4) 情報教育	◆東公民館 ・前期1講座5人 延5人参加 ・後期4講座23人 延23人参加 ◆菅田公民館 ・前期2講座24人 延75人参加 ・後期3講座20人 延20人参加 ◆下原公民館 ・前期2講座19人 延19人参加 ・後期5講座57人 延57人参加 ◆金山公民館 ・前期3講座22人 延22人参加 ・後期1講座10人 延10人参加 ○合計 ・前期8講座70人 延121人参加 ・後期13講座110人 延110人参加	金山地区4公民館ともに公民館主事を中心となり、多くの講座を開催することで、子どもからお年寄りまで楽しく学べる機会を創出することができました。
公民館施設管理 10040405	市内10か所の公民館管理。 ①山之口公民館 ②湯屋地区公民館 ③上原公民館 ④下原公民館 ⑤菅田公民館 ⑥あさみず会館 ⑦竹原公民館 ⑧中原公民館 ⑨東公民館 ⑩馬瀬中央公民館	(3) 地域教育 (4) 情報教育	施設の利用状況 山之口公民館 1,691人 前年度比116.5% あさみず会館 4,206人 前年度比109.5% 湯屋地区公民館 1,740人 前年度比73.0% 竹原公民館 9,821人 前年度比117.44% 上原公民館 2,130人 前年度比69.8% 中原公民館 3,032人 前年度比93.4% 下原公民館 6,007人 前年度比92.3% 菅田公民館 4,678人 前年度比149.6% 東公民館 1,347人 前年度比117.3% 馬瀬中央公民館 1,636人 前年度比88.8% 計 36,288人 前年度比103.8%	適正な維持管理を行い、例年同様に運営することができました。地域行事の実行委員会会議や、特定健診の場となっています。

生涯学習事業の重点事業と評価

評価

重点	重点（事業）	(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
公民館施設維持 補修 10040409	◇市内7カ所の公民館にかかる小規模修繕	(3) 地域教育	公民館経費修繕 259千円	適正な維持修繕を行い、利用者にとって利用しやすい条件を整えました。
図書館運営 10040501	◇3図書館（はぎわら、下呂、金山）及び小坂図書室と馬瀬移動図書館の運営 ◇新刊図書購入費、図書システム運用管理 ◇資料の充実、雑誌・月刊誌の充実 ◇広報活動	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (4) 情報教育	・蔵書数 H30 109,592冊 R1 113,324冊 (↑) ・貸出数 H30 95,659冊 R1 97,609冊 (↑) ・年間276日開館	蔵書数、年間貸出数は増加しています。今後も積極的な集客事業を行っていきます。
位山自然の家管理運営 10040801	◇位山自然の家の管理運営 一部管理委託、開設期間4月～11月 ◇耐震診断結果により令和元年度より施設休止中。ただし、ハーベキュー場・体育館は利用可能	(2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育	耐震診断結果により施設休止中	今後の方針を検討中
いきいきセンター管理運営 10040809	◇いきいきセンター管理運営	(3) 地域教育	令和元年度利用者936人 ※前年度比 116.7%	適正な維持管理を行いました。
社会教育施設維持補修事業 10040813	◇社会教育施設の小規模修繕、維持補修 ◇位山自然の家・いきいきセンター・山之口キャンプ場	(2) 青少年教育 (3) 地域教育	修繕 ◆山之口キャンプ場 ・照明設備修繕21千円 ◆その他軽微修繕21千円	各社会教育施設において、適正な維持修繕を行うことができました。